



災害に備えた水の確保対策

新和とうかい 土尻 滋 議員

**議員** 今回の震災では、水道の大元の配管や多くの給水管が破損し、長期間断水するなど、ライフラインの脆弱性が明らかになった。

今回のような事態にならないように、水道管の耐震化を早急に進めるべきだと思うが、その際の問題点・課題は何か。また、これまで何故、耐震化が行われてこなかったのか。

**建設水道部長** 何故壊れていない施設を更新しななければならないのか、という意識も耐震化が進まない要因の一つ。また現在、浄水場の耐震工事や施設更新

工事（平成27年度完了予定）を行っており、管路耐震化の財源確保が難しい。

耐震化が進んでいない理由としては、既設管路の更新時期がある。耐用年数に達した管路の更新工事に伴って耐震化を行うのが最も経済的だが、本村の水道事業は昭和52年度から供用開始をしており、今後5年間は耐用年数40年に達する管路がない。が、今回の震災を経験して、耐震管への更新を検討していきたいと考えている。

**議員** 今回わずかな水を貰うために何時間も

並ばなければならなかったが、一方で井戸水が大いに役に立ったという状況がある。

危機管理として、コミセンや防災拠点など必要などところに、自家発電機付きの井戸を設置してはどうか。

**総務部長** 今回の震災により避難所設備等を含めた防災体制の見直しが急務であるとの認識を持っているので、井戸設置について検討するとともに、災害時の共助という考え方から、個人所有の井戸を使用できる井戸マップの作成についても協議していきたい。



東海第二発電所の運転再開についてどう考えるか

日本共産党 大名美恵子 議員

**議員** 東海福島第一原発の過酷事故は、JCO臨界事故の教訓が生かされず、根強い原発の「安全神話」がもたらした最大最悪の人災。東海第二原発が地震で外部電源喪失、津波で非常用電源を一部喪失したことは、地震がもとで電源を喪失したという福島第一原発と紙一重だったと受けとめている。東海第二原発の運転再開に関する考え方を問う。

**村長** 東海第二は福島と実に紙一重だった。数十cmの水嵩の結果セーフだった、対策としては極めて不十分

だったと思っている。福島第一原発と同じことが東海村で起こったとしたら、避難住民ははるかに多くなり大変な事態になっていただろうと背筋が凍る思いがした。

また、東海第二が津波があと70cm高かったなら全電源喪失していたと後で聞いて大変驚いた。運転再開については、地震による原発の問題

談会での村民の意見も伺い判断していきたい。

**議員** 東海第二は運転開始33年、定検ごとに機器交換等長期間を費やしている。危険が増しているのではないかと。

**村長** 老朽化についても考えながら今後対処していきたい。

**議員** 原発は炉心溶融が起るもの、危険なものであることを肝に銘じて対応していただきたい。

また、村の原子力安全懇談会の意見、原電の住民説明会や村政懇

・その他の質問から  
 ・地域防災計画の抜本的見直しを  
 ・ヨウ素剤の管理と活用の具体的計画を  
 ・産廃訴訟への支援を